

# 産業廃棄物処理業 経営塾

Waste Management Foundation

平成23年度  
第8期生 募集要項



財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団

# 開塾のご挨拶

President's message

産業廃棄物処理業経営塾 塾長  
鳥取環境大学サステナビリティ研究所長 特任教授

## 田中 勝

世界では約150億トン(2010年度)の廃棄物が排出されています。いろいろな資源を使って製品・商品を作り私たちの豊かな生活や経済活動を支えています。その過程で都市ごみや産業廃棄物が排出されます。廃棄物が出ない社会は、経済の衰退、貧困な生活とも見えるわけです。従ってほどほどの廃棄物が排出される社会が健全な社会と言えるのではないのでしょうか。

最近の状況を見ますと、リーマンショックからの回復が見られ、経済の回復が見られます。しかも新興国を中心に、人口増とともに経済発展が著しく、2050年には世界の廃棄物は270億トンを超えるでしょう。そのように急増する廃棄物を資源として使われ、又適正に処理され生活環境が保全されるようにする産業廃棄物処理業の果たす役割は極めて重要と言えます。世界的にみれば今後、産業廃棄物処理業にとっては大きな成長のチャンスがあるといえるでしょう。

経営塾では産業廃棄物処理業界に『読み、書き、そろばん』の出来る実力のある経営者を育てることが出来ればと願っています。「読む」という意味には、文字に書いた文章を日本語であろうが外国語であろうが読めるということもありますが、先を読む力、人の話の本意を読む力も含まれています。物を作れば、それらは必ずいずれ廃棄物になるので、製造者は廃棄物になった後のことを考えて物の設計や素材の選定をすることが求められています。製造物の最終段階までの先を読むこと、これが廃棄物学の基礎です。次に「書く」ですが会議の議事録を作ったり、挨拶文を書くことは基本ですが、企業の将来ビジョンを描きそれを達成するシナリオを描く「書く」ことは重要ではないのでしょうか。「そろばん」は、どのような選択をすれば得になるかを判断する能力です。経済的な側面だけでなく社会倫理面など社会の信頼を向上する上でのプラスになるかどうかの判断が出来ることがますます重要になると考えられます。このように企業の経営者として、また一人の立派な個人として日々マネジメントする人間力を高める「読み、書き、そろばん」の能力を高めていただき、それぞれの人生の目標を達成していただきたいと思ひます。

日本の産業廃棄物処理技術は世界に誇る高いものを持っています。目を国内だけでなく、国外に向けると世界にはまだまだ日本の経験やノウハウを必要とする国がたくさんあり、またそのような経験やノウハウを蓄積しなければなりません。世界を視野に入れ海外に進出できる力を身につけていただきたいと思ひます。

経営塾でお願いしている講師陣はそれぞれの分野で最高の人材を集めています。またとない機会をとらえて、講師の持っている経験や知識を吸収して、生かし(リユース)、現場に適したように(リサイクル)するのは受講生の皆さんの責任でしょう。そして、失敗を最小限に減らす(リデュース)することに努めていただきたいと思ひます。どうか皆さんが、産業廃棄物処理業経営に係り、地球を磨く掃除人であり、地球の病気を治療するお医者として素晴らしい地球を持続可能にする救世主になっていただきたいと思ひます。私たちはこのように重要な産業廃棄物処理業に係れることを誇り(Pride)に思い、持続可能な社会の構築の柱になることを夢(Dream)見て又産業廃棄物の処理は自分たちの使命(Mission)だと思ひ、PDMを常に心に抱けるように経営塾で学んで欲しいと思ひます。

# 「産業廃棄物処理業経営塾」組織

塾長

鳥取環境大学サステイナビリティ研究所長 特任教授

田中 勝

副塾長

(財)産業廃棄物処理事業振興財団専務理事

飯島 孝

副塾長

(株)エックス都市研究所取締役特別顧問

青山 俊介

事務局

- 名称 財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
- 設立 平成4年12月3日  
(厚生大臣設立許可厚生省生衛第1000号)
- 指定 産業廃棄物の処理に係る特定施設の整備の促進に関する法律第16条に基づく厚生大臣指定法人  
(平成4年12月24日:厚生省生衛第1073号)  
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第13条の12に基づく産業廃棄物適正処理推進センターとしての  
厚生大臣指定法人  
(平成10年7月1日:厚生省収生衛第879号)

## Benefits

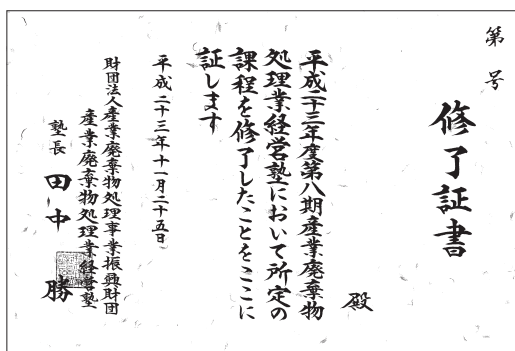
# 「産業廃棄物処理業経営塾」に入塾すると…

## 信用力のある修了証書

卒塾生には「産業廃棄物処理業経営塾」修了証書を塾長名で授与いたします。

この修了証書が優良な産業廃棄物処理業の経営責任者として評価され、施設建設や事業運営に際しての信用力としても活用されるよう、他に類例のないカリキュラム、講師陣によって塾運営を行います。

また、その信用力を担保するために、入塾資格を厳しく審査すると共に、個別に卒塾面談を行い、卒塾生の資質を高めるよう配慮致します。



## ネット広場による講義のフォローアップとネットワークの強化

入塾と同時に、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)「ネット広場」に入会出来ます。この「ネット広場」に講義のほとんどを公開しています。また同期生や卒塾生と在塾期を越えて交流出来るほか、本財団からのお知らせや国の動向の情報を受け取ることが出来ます。

- 講義の公開
- 事務局からの情報発信  
(受講の案内、国の動向、イベントの広報)
- 塾生・卒塾生同士の情報交換・意見交換の場



6月2日(木)

## 産業廃棄物処理事業概論 (開塾式 15:00～、開塾懇親会 17:30～)



- 開塾最初の講義として、経営塾の講義の全体構成、卒塾資格条件などの説明。
- 産業廃棄物処理業展開状況や制度・国際的な動向を鳥瞰すると共に、産業廃棄物処理の経営／優良処理業者育成などの今日的潮流を講義。

### 担当講師

副塾長・(株)エックス都市研究所 取締役特別顧問 **青山 俊介**

72年東京大学大学院工学系都市工学科修了。82年(株)エックス都市研究所代表取締役就任、06年同社取締役特別顧問、(株)環境構想研究所代表取締役、現在に至る。(社)土木学会地球環境委員会委員長、愛知博覧会政府出展事業環境担当ディレクター、廃棄物学会理事、(社)海外環境協力センター運営委員長などを歴任。主な現職は、(財)日本産業廃棄物処理振興センター理事、(社)日本有機資源協会副会長、(社)日本プロジェクト産業協議会理事・環境委員長、杉並区環境清掃審議会会長など。



### 担当講師

副塾長・当財団専務理事 **飯島 孝**

72年東京大学工学部卒業。同年厚生省入省。99年厚生省生活衛生局水道環境部環境整備課長。01年環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課長。02年環境省廃棄物・リサイクル対策部長。03年(独)国立環境研究所理事就任。06年(財)産業廃棄物処理事業振興財団専務理事に就任、現在に至る。



開塾式

## ② 産廃にかかる法制度・行政



### ① 産廃処理資源化に関する法制度

(1限／講義 10:30～11:50)

- 我が国の産業廃棄物行政の担当部署の責任者から、本年4月施行の改正廃棄物処理法を中心とした産業廃棄物関連法制度を、産業廃棄物処理業の現状と関連づけて講義。

担当講師

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長 廣木 雅史

1988年東京工業大学大学院修士課程修了、同年環境庁入庁。2007年環境省廃棄物・リサイクル対策部浄化槽推進室長、2008年経済産業省四国経済産業局総務企画部長、2010年環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長に就任。現在に至る。



### ② 優良化推進事業とその周辺

(2限／講義 13:10～14:30)

- 産業廃棄物処理業優良化推進事業について、推進委員長を務められている同氏より、現在までの状況と今後の方向性、さらに産業廃棄物法制の展望についての講義。

担当講師

上智大学法学部 教授 北村 喜宣

現在の研究課題は、景観まちづくり法制の研究、地方分権時代の法制度の研究、環境管理の法と政策研究。著書：「自治体環境行政法」(第一法規)、「環境法」(弘文堂)、「産業廃棄物法改革の到達点」(グリニッシュ・ピレッジ)等多数。



### ③ 地方における廃棄物行政

(3限／講義 14:50～16:10)

- 行政機関と産業廃棄物処理業者の関わり方について、対立の構図から連携・協働へとチェンジしていくために相互に必要なことのポイントを講義する。

担当講師(予定)

京都府 文化環境部循環型社会推進課 主査 岩城 吉英

80年京都府庁入庁。管財、税務行政等を経て00年に循環型社会推進課に配属され産業廃棄物処理業許可・行政処分等を担当、03年に不法投棄等特別対策室に配属後、産業廃棄物の不法投棄等不適正処理対策(行政代執行を含めた多数の不法投棄等の原状回復)に従事し、現在に至る。04年から(財)産業廃棄物処理事業振興財団の不法投棄事案対応支援事業専門家委員に就任。

### ◇ ディスカッション (予定)

(講義終了後／希望者による自由参加)

担当講師

京都府 文化環境部循環型社会推進課 主査 岩城 吉英

7月7日(木)

## ③ 産業界・排出事業者



### ① 産業界からみた産業廃棄物処理業

(1限/講義 10:30 ~ 11:50)

- 廃棄物・リサイクル問題における日本経団連の取組や考え方等について講義。主に、排出事業者・動脈産業の立場から、日本経団連環境自主行動計画や規制改革等の考え方を説明。

担当講師

(社)日本経済団体連合会 環境本部 主幹 平田 充

94年早稲田大学教育学部卒業、同年日本経営者団体連盟研修部、97年出版部、99年労政部(現(社)日本経済団体連合会労働政策本部(労政担当))、04年同雇用・労務管担当、05年同雇用・労務管理グループ副参事、06年労政第一本部雇用管理グループ副長、09年環境本部主幹。



### ② リコーグループの廃棄物処理業者監査と優良処理事業者認定の取組

(2限/講義 13:10 ~ 14:30)

- リコーグループでは、産廃ネットの公開情報も活用しながら独自の処理業者監査制度を運用している。監査制度は2006年から開始し、2010年度末で約800回を数えている。また、2009年、管理状態の優良な処理業者への認定を開始した。講義では、①リコーグループの監査制度の仕組み②排出者視点の安心・安全な処理委託を確認するためのポイントについて解説する。

担当講師

(株)リコー 社会環境本部 環境経営推進室 稲田 俊生

1985年東京農工大学工学部応用物理学科卒業。同年(株)リコー入社、研究開発部門勤務。環境測定部門を経て現在に至る。電気・電子4団体(※)事業所関連廃棄物・リサイクル対策専門委員会委員。

※電気・電子4団体:(社)日本電気工業会、(社)電子情報技術産業協会、(社)ビジネス機械・情報システム産業協会、情報通信ネットワーク産業協会



### ③ 大丸有地区における環境共生型まちづくりへの取組

(3限/講義 14:50 ~ 16:10)

- 環境共生型のまちづくりは一企業だけでなく、地域の様々なステークホルダーがビジョンを共有し連携することで実現します。コミュニティの一員として取組む、ビル単体から面的へと展開するエネルギーや水の循環型利用、3R活動等の実証的な事例や課題について講義。

担当講師

三菱地所(株) ビルアセット事業グループ 都市計画事業室 環境ユニットマネージャー 近江 哲也

98年東京工業大学大学院社会理工学研究科社会学専攻修了。箱根☆星の王子さまミュージアム、愛・地球博NEDOパビリオン、大手町カフェ等の施設開発コンセプトデザインや、小笠原グランドデザイン策定、青森県バイオマス戦略策定等の自治体による資源循環型の地域戦略づくりを多数手がける。2007年より三菱地所にて、コミュニティに根ざした環境共生型まちづくりの事業開発に従事。エコツヴェリア協会事務局次長。三重大学生物資源学部地域計画学非常勤講師。

7月21日(木)~7月22日(金)

## 夏季合宿研修 [アジュール竹芝] 21日13:00集合 22日17:00解散

### ① 廃棄物処理経営における温暖化対策の取組

担当講師

(社)全国産業廃棄物連合会 青年部協議会 会長 加藤 宣行

## ②合宿研修～他業界の事例研究【グループ討議】

- 他業界の特色ある2社について比較検討し、経営理念、事業領域、事業環境、差別化や競争優位性の作り方、基本戦略フレーム等について学び、自社の事業展開のあり方について考えるヒントとする。

### 協力

(社)全国産業廃棄物連合会 青年部協議会 会長 加藤 宣行

(株)チェンジマネジメントシステム 代表取締役 松下 智明

8月4日(木)

## 4 コンプライアンス



### ①廃棄物処理法遵守の心得

(1限/講義10:30～11:50)

- 廃棄物処理法の趣旨、遵守の必要性、「行政処分の指針」、事例を中心とした欠格要件などについて廃棄物処理法を体系的に講義。

#### 担当講師

橋元総合法律事務所 弁護士 鈴木 道夫

87年3月中央大学法学部法律学科卒業。88年11月司法試験合格。89年4月最高裁判所司法研修所司法修習生(第43期)。91年4月弁護士登録(東京弁護士会所属)。02年3月東京弁護士会常議員。03年12月環境省アドバイザー(「特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法」に基づく実施計画書の審査に関する委嘱)。04年4月産業廃棄物適正処理推進センター運営協議会委員長。



### ②リスクマネジメント

(2限/講義13:10～14:30)

- 廃棄物処理業の鍵となる信頼確保のため、コンプライアンスと環境リスクにおけるコミュニケーション能力の手法、手順について事例を参考に講義。

#### 担当講師

佐藤泉法律事務所 弁護士 佐藤 泉

第一東京弁護士会所属。主な業務:環境問題知的財産権、PL問題等に関する訴訟、法律相談。日本弁護士連合会:公害対策・環境保全委員会委員(化学物質部会)。第一東京弁護士会:環境保全対策委員会委員。環境省:中央環境審議会臨時委員(土壌・農業部会)。



### ③リスクマネジメント【グループ討議】

(3限/講義14:50～16:10)

#### 担当講師

BUN環境課題研修事務所 主宰 長岡 文明 佐藤泉法律事務所 弁護士 佐藤 泉

80年宇都宮大学大学院修士課程工学研究科修了。同年山形県技術吏員として入庁。09年文化環境部循環型社会推進課課長補佐を退職。03年より環境省「今後の産廃行政研究会」委員、05年より環境省環境調査研修所講師、(財)日本産業廃棄物処理振興センター講習会テキスト編集委員を務める。著書に「土日で入門、廃棄物処理法」(日環センター)など、共著に「ごみハンドブック」(丸善)などがある。

9月8日(木)

## 5 産廃処理業の経営Ⅰ



### ① 循環型社会の構築とわが社の事業展開

(1限/講義 10:30 ~ 11:50)

- 廃棄物分野で先駆的に事業拡大に取り組む同社社長より、これまでの事業戦略と事業拡大の変遷、内外の動向や業界の動きを見据えた近未来への戦略、業界の課題等について講義。

担当講師

(株)市川環境エンジニアリング 代表取締役社長 石井 邦夫

69年早稲田大学教育学部卒業後、父の営む会社に就職。74年(株)市川環境エンジニアリング代表取締役社長就任。89年から(社)千葉県産業廃棄物協会会長。10年(社)全国産業廃棄物連合会会長就任。このほか市川商工会議所副会頭、千葉県経営者協会常任理事など、役職多数。



### ② 協業化による資源循環業のありかた

(2限/講義 13:10 ~ 14:30)

- 建廃最大手の同社会長より、経営理念、創業から現在までの歩み、課題とブレイクスルーポイント、今後の事業展開や次世代への期待等について講義。

担当講師

(株)タケエイ 代表取締役会長 三本 守

68年個人企業として建設廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ始める。77年武栄建設興業(株)を設立、取締役就任。83年代表取締役就任。88年(株)タケエイに社名変更。10年代表取締役会長に就任。(社)全国産業廃棄物連合会理事、(社)千葉県産業廃棄物協会理事、環境省・国土交通省の各種委員会委員など、委員多数歴任。



### ③ わが社の「事業再構築」と財務戦略

(3限/講義 14:50 ~ 16:10)

- 廃棄物処理業が80年代から90年代にかけての草創期・成長期を経て、2000年代に入り、成熟期を迎えた。2010年、成熟期も終わり、衰退期に突入している。中間処理施設が全国的に充実し、3Rと適正処理の徹底がいつそう求められるなか、従来の延長線上では、明らかに事業の存続が難しくなっており、処理業経営とその事業形態は新たなモデル構築が必要になっている。実際の処理業経営者が次世代のビジネスモデルを提示する。また、昨今の金融情勢の急激な変化をふまえ、処理業経営者がとるべき財務戦略について講義する。

担当講師

新和环境(株) 代表取締役社長 近藤 亮介

93年東京理科大学理学部応用化学科卒。同年戸田建設(株)入社。環境・品質管理室に所属し、建設現場におけるゼロエミッションモデル構築、廃棄物適正処理管理、廃棄物減量化管理、廃棄物処理業者の査定及び購買、汚染調査事業、汚染土壌修復事業等を担当。01年新和环境(株)入社。02年取締役経営企画部長。03年取締役副社長兼COO。05年取締役副社長兼CFO。06年代表取締役副社長兼CFO。07年代表取締役社長兼CEO。その他、処理業者の設備投資におけるF/Sや財務戦略支援など、経営コンサルティングも手がける。

9月15日(木)

## 6 産廃処理業の経営Ⅱ



### ① わが社の事業の取組 —人材育成と組織力強化—

(1限/講義 10:30 ~ 11:50)

- 成長する「環境ビジネス」市場をチャンスととらえ社長就任以来始めた「大卒新卒採用」など人材戦略を中心としたわが社の経営戦略について解説したいと思います。

担当講師

(株)浜田 代表取締役社長 浜田 篤介

1963年大阪府生まれ。大阪電気通信大学工学部卒業。大手ソフト開発会社を経て、1994年(株)浜田入社。2003年社長就任。(社)大阪府産業廃棄物協会理事。



## ② わが社の事業の取組

(2限／講義13:10～14:30)

- 世の中に存在する様々な環境問題に対して、私たちがのソリューション(解決策)を提案し、社会に貢献したいという志をもって事業を展開しています。現在は、土壌汚染問題に全力で取り組んでいますので、土壌汚染対策事業を中心に、その他の新規事業・ダイセキグループ全体の取組についてもご報告したいと思います。

担当講師

(株)ダイセキ環境ソリューション 代表取締役社長 **二宮 利彦**

84年東京大学文学部卒業、同年野村證券(株)入社、96年5月(株)ダイセキ取締役就任(04年2月退任)、99年5月(株)ダイセキプラント(現(株)ダイセキ環境ソリューション)取締役副社長就任、00年3月同社代表取締役社長就任(現在に至る)。04年12月同社東証マザーズに上場。08年2月同社東証1部に上場。



## ③ 処理業界における経営拡大の取組

(3限／講義14:50～16:10)

- 時代の変化や事業環境の変化に伴い、鉄スクラップのみならず、様々な資源の高度リサイクルへと急速に拡大・変貌する同社の経営理念・行動・手法等について講義。

担当講師

スズクホールディングス(株) 代表取締役社長 **鈴木 孝雄**

68年(株)鈴木徳五郎商店(現(株)鈴徳)入社、85年代表取締役社長、96年日本鉄リサイクル工業会会長(06年6月まで)などを経て、07年7月よりスズクホールディングス(株)代表取締役社長に就任。

9月16日(金)

施設見学



10月6日(木)

## 7 廃棄物技術



### ① 産業廃棄物技術<総合>

(1限/講義 10:30 ~ 11:50)

- 大手廃棄物処理設備メーカーとして産業廃棄物処理設備建設と共に、処理業への進出面でも実績のある会社において、処理業事業化業務を推進してきた経験に基づき、経営的視点に立った焼却処理施設、周辺技術および運用ノウハウなどの講義。

担当講師

(株)タクマ 営業統轄本部 事業管理本部 業務2部 2課 課長 **赤石 隆宏**

98年北海道大学大学院工学研究科衛生工学専攻修了。同年(株)タクマ入社。以来、産業廃棄物処理施設に関する技術業務を皮切りに、処理事業会社の設立および運営管理業務を担当。事業会社取締役兼務。技術士(総合技術監理、衛生工学)。



### ② 産業廃棄物技術<最終処分>

(2限/講義 13:10 ~ 14:30)

- 産業廃棄物処分技術のわが国の第一人者である同教授から、最新の最終処分技術とその動向、最終処分の視点から処理事業経営者として踏まえておくべき事項の講義。

担当講師

福岡大学大学院 工学研究科 教授 **樋口 壯太郎**

72年福岡大学工学部土木工学科卒業。同年日本技術開発(株)入社。97年九州大学大学院博士後期課程修了。01年福岡大学工学部教授着任、02年より同大学大学院工学研究科資源循環・環境工学専攻、地域環境専修教授兼任、資源循環・環境制御システム研究所所長、現在に至る。審議会等委員多数歴任。



### ③ 産廃処理資源化技術の新潮流

(3限/講義 14:50 ~ 16:10)

- 廃棄物処理技術の評価検証や処理施設性能指針の策定および機能検査等を主導してきた同氏から、産業廃棄物の処理・資源化に係る技術・運用、構造・維持管理基準対応、ビジネス手法について新潮流を講義。

担当講師

(財)日本環境衛生センター 常務理事・環境工学部長 **藤吉 秀昭**

72年九州大学農学部農芸化学科卒業。74年(財)日本環境衛生センター入所。現在、常務理事・総局企画調整室長。78~88年ごみ処理施設精密機能検査等、89~00年ごみ処理施設の基本計画、基本設計、建設指導業務等に係わる。専門分野は「廃棄物工学」。工学博士、技術士(衛生工学部門)。著書:循環型社会形成に向けたごみ焼却施設改良・改造技術に関する手引書(JESC)等多数。

10月7日(金)

## 8 施設計画・財務・マネジメント



### ① 塾長講義

(1限/講義 10:30 ~ 11:50)

- アジア・米国・欧州諸国における廃棄物処理の現状、安全性の確保や経済的な有害廃棄物処理の取組とその考え方、熱回収促進の取組等について俯瞰し、今後の我が国の廃棄物処理と海外動向を踏まえ、今後の塾生への期待等を交えて講義する。

担当講師

鳥取環境大学サステナビリティ研究所長 特任教授 **田中 勝**

1964年京都大学工学部衛生工学科卒業、1970年米国ノースウェスタン大学大学院博士課程修了、同年米国ウェインズテイト大学助教授、1976年厚生省入省、国立公衆衛生院にて研究・教育に従事、1992年厚生省国立公衆衛生院廃棄物工学部長、2000年岡山大学環境理工学部教授、2007年岡山大学名誉教授、2008年鳥取環境大学教授、2010年より現職。第6代廃棄物学会会長(2000年)、中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会長(現在)、東京都廃棄物審議会会長(現在)。



## ② 施設計画

(2限／講義 13:10～14:30)

- わが国の産業廃棄物熱処理施設のトップ企業社長である同氏から、熱処理施設技術、その施設費や運転管理費構造などについての講義。

担当講師

(株)アクトリー 代表取締役社長 **水越 裕治**

71年金沢工業大学経営工学科卒業。同年村田機工入社(01年(株)アクトリーに社名変更)。78年同社常務取締役就任、89年専務取締役就任、94年代表取締役社長就任、現在に至る。金沢大学工学博士、金沢大学非常勤講師、大連化学工業大学客員教授(中国)他、役員多数歴任。



## ③ 産業廃棄物処理事業の財務

(3限／講義 14:50～16:10)

- 財務諸表の読み方・解き方の基本を概説し、産廃業の収集運搬・中間処理・最終処分毎に、財務諸表からみた特徴や平均像について紹介し、事業改善のポイント等について講義。

担当講師

大城公認会計士・税理士事務所 公認会計士・税理士 **大城 清也**

85年早稲田大学社会科学部卒業。98年(株)共栄経営研究所入社。98年公認会計士登録、大城公認会計士事務所設立。02年(財)産業廃棄物処理事業振興財団債務保証事業審査委員(財務担当)就任。自動車リサイクル法の制定に深くコミットするなど、環境政策における税制上の諸課題につき、多方面にアドバイスをこなしている。

**10月20日(木)～10月21日(金)**

**秋季合宿研修**【ハートピア熱海】 20日12:45集合 21日17:00解散

## ① わが社の事業の取組

担当講師

(株)リヴァックス 代表取締役社長 **赤澤 健一**

## ② 合宿研修～グループ討議【テーマ別】



11月10日(木)

## ⑨ 処理業経営者に期待すること



### ① 廃棄物処理業における低炭素の取組最前線

(1限/講義 10:30 ~ 11:50)

- 産業廃棄物企業1700社が参加したCO<sub>2</sub>マイナスプロジェクトや最新の低炭素社会実現に向けての様々な取組についてご説明致します。また二酸化炭素排出量削減に関する制度が複数できているが複雑であり理解し辛い内容が多いのが現状です。本講では、最新の制度について詳しく説明致します。

担当講師

カーボンフリーコンサルティング(株) 代表取締役 **中西 武志**

東京大学大学院経済学研究科中退。青山学院大学国際経営学修士。早稲田大学商学部卒。シティバンクNA.金融商品開発部部長、ゴールドマンサックス証券バイスプレジデント、クレディスイス証券金融商品開発部長等を経て地球温暖化防止の為に立ち上がりカーボンフリーコンサルティング(株)設立。その他 金融最先端の手法に関する著書・論文等多数。気候変動問題を解決するために、カーボンオフセットを始め様々な手法やプロジェクトを構築。カーボンオフセットに関しては取扱件数が最大の企業に成長させた実績がある。WFP(国連世界食糧計画)との世界初の取り組みとなるFOOD FOR CARBONFREE PLANや日本独自の温暖化防止のために海洋緑化など、環境問題に取り組む日本有数の社会起業家である。



### ② アジア経済圏の動向と海外戦略

(2限/講義 13:10 ~ 14:30)

- 経済学者でアジア経済に精通している同氏から、近年の国際経済の流れ、特に東アジア経済の動向や日本経済の実態を概観し、日本独自のものづくりの例を交えて日本企業が世界に貢献し目指していく方向性、廃棄物処理業経営者がグローバルな視点を持つためのヒント等について講義。

担当講師

愛知淑徳大学 ビジネス学部研究科 教授・キャリアセンター長 **真田 幸光**

81年東京銀行入行、97年5月東京三菱銀行ソウル支店主任支店長代理、97年12月~98年独系・ドレスナー銀行東京支店(企業融資部部長)、98~00年愛知淑徳大学ビジネス・コミュニケーション研究所・助教授、10年より現職。中小企業総合事業団中小企業国際化支援アドバイザー、東アジア経済経営学会など委員多数歴任。日本貿易振興機構(JETRO)報告書等の論文、朝鮮日報・韓国経済新聞等経済誌へ多数寄稿。NHKクロースアップ現代などTV・ラジオ出演。



### ③ 低炭素・省エネ社会に向けた廃棄物処理事業

(3限/講義 14:50 ~ 16:10)

- エネルギー分野の各種審議会等の主要メンバーとして活躍する同氏から、最近のエネルギー政策や新エネルギーの動向を踏まえて、廃棄物処理業経営者が事業を推進する上で求められる視点について講義。

担当講師

東京工業大学 教授 **柏木 孝夫**

46年12月東京生まれ。70年東京工業大学工学部卒業、79年博士号取得。80~81年米国商務省NBS招聘研究員。88年東京農工大学教授、07年より東京工業大学統合研究院教授、大学院理工学研究科教授。09年9月~国立大学法人東京工業大学統合研究院先進エネルギー国際研究センター長。経済産業省の総合資源エネルギー調査会新エネルギー部会長ほか各種審議会委員。日本エネルギー学会会長(21代)等歴任。

卒業レポート提出

必修

卒業面談(塾長・副塾長)

必修

(日時は個別に設定)

卒業式 11月25日(金) 16:00~17:00

## 産業廃棄物処理業

# 経営塾OB会

経営塾OB会とは…

**卒塾生間の連携とネットワークの強化  
卒塾生の経営能力を  
向上させるためのさらなる研鑽**

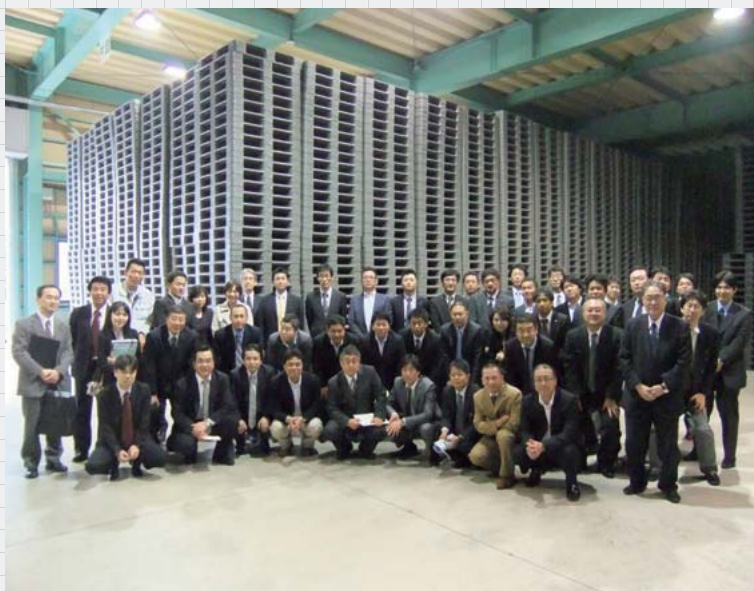
### ■ 運営／活動内容

経営塾OB会は自主的かつ独立した運営を行っており、各卒塾期代表からなる幹事会において年間活動計画を立案し、運営しています。

主な活動としては、施設・現場見学会、企業経営者等による講演会のほか、全国の卒塾生のネットワークを活かして産廃業界のさらなる発展を目指す地域別ワークショップ活動や、関係省庁・団体への提言等の情報発信を行っています。

### ■ 主な年間行事

- 定時総会(年1回)
- 施設見学会(年1回)
- 地域別ワークショップ活動(年数回)
- 成果発表会・賀詞交換会(年1回)



# 受 講 要 項

## 日程

平成23年6月～11月(6ヵ月)

## 講義数

27講義+合宿研修(2回)+施設見学会

## 講義時間

### ■ 通常の講義の場合

1限目 10時30分～11時50分

2限目 13時10分～14時30分

3限目 14時50分～16時10分

## 会場(講義&合宿研修)

### ■ 講義会場

- ECOZZERIA「エコツェリア」  
東京都千代田区丸の内1-5-1  
新丸の内ビルディング10F  
TEL. 03-6266-9400(施設代表)



講義会場 ECOZZERIA「エコツェリア」

## ■ 合宿研修

- アジュール竹芝  
東京都港区海岸1-11-2  
TEL. 03-3437-2011(代表)



合宿研修 アジュール竹芝

- ハートピア熱海  
静岡県熱海市伊豆山717-18  
TEL. 0557-80-4050(代表)



合宿研修 ハートピア熱海

# 募 集 要 項

## 募集要項

### ● 応募資格

以下のいずれかに該当する者であること。また、①及び②に該当する者が勤務する企業においては、過去5年にならば廃棄物処理法などの法令違反に問われていないこと。

- ①優良な産業廃棄物処理事業者としての評価を得ている企業の経営者又は経営の一翼を担っている者。
- ②優良な産業廃棄物処理事業者としての評価を得ている企業の技術面での統括管理者であり、産業廃棄物処理に関する技術資格を有する者。
- ③産業廃棄物処理事業に準ずる豊富な経験を有し、今後、産業廃棄物処理事業への本格参画を図ろうとしている企業(素材メーカー、処理施設メーカーなど)において、①・②の条件に対応した要件を満たす者。
- ④その他、本塾塾生としての受講を認める相当の理由があるとして塾長が認めた者。

● 募集人員 35名

● 受講料 52.5万円

## 申し込み方法

- 提出書類 入塾願書(写真を貼付したもの)と顔写真1枚(4cm×3cm)を送付願います。
- 応募締切 定員に達し次第、締切と致します。事務処理の都合上、平成23年5月19日(木)までに申し込みくださいますようお願い致します。
- 選考方法 当財団の資格審査により選考致します。
- 支払方法 請求書を送付いたします。(全額前納とし、納入後は事情によらず原則として返金はいたしません)

## 入塾までの流れ

### 入塾願書提出

下記の書類を事務局までお送り下さい。

1. 入塾願書(写真を貼付したもの)
2. 顔写真1枚(4cm×3cm)



入塾審査結果書を送付いたします。



### 受講料の支払い

受講料を指定口座にご入金下さい。  
なお、振り込み手数料は貴社にてご負担下さい。



入塾式の案内書を送付いたします。

### ■ お問い合わせ

産業廃棄物処理業経営塾・事務局  
(財)産業廃棄物処理事業振興財団  
〒101-0044  
東京都千代田区鍛冶町2丁目6-1  
堀内ビルディング3階  
TEL. 03-3526-0155 FAX. 03-3526-0156  
担当/経営塾担当 中川、兼子、改田  
E-mail: jyuku@sanpainet.or.jp

## Waste Management Foundation



交通案内：JR 神田駅東口より徒歩 1 分 地下鉄銀座線神田駅(出口 1 番)より徒歩 3 分

 **財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団**

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-6-1 堀内ビルディング 3 階

TEL : 03-3526-0155 FAX : 03-3526-0156

<http://www.sanpainet.or.jp>